

森林吸収源インベントリ情報整備事業ブロック別地域講習会 西日本ブロック（四国）

開催日：2012年7月18日（水）

場所 高知県土佐郡土佐町（調査地点コード 390280）

講師 三浦（森林総研本所）、酒井・森下（森林総研四国支所）

○概要

西日本ブロックを受託した熊本県森林組合連合会の責任者 1 名、四国を担当する（株）アドプランツコーポレーションの担当者 4 名を対象に地域講習会を実施した。前日に梅雨開けが発表されたものの当日は時折日が差す程度の曇り空で、暑すぎることなく、比較的作業しやすい環境で、講習会が行われた。

朝 8 時半に道の駅「土佐さめうら」を出発し、約 20 分、自動車 3 台で移動した後、調査道具一式を携え、約 10 分歩道によるアプローチで調査予定地に到着した。調査地は傾斜 30 度程度のスギ林で、下層植生も少なく、スムーズに森林資源モニタリング調査の中心杭等を確認することができた。

午前中は、全員で東西・南北方向のラインを確認してから、2 班にわかれ、N および W 地点における炭素蓄積量調査をおこなった。参加者らは、事前にマニュアルの読み合わせのみならず、保有する圃場（竹林）で予行練習をおこなっており、6 月に多摩で開催した講習会のように講師が基本から全てを教える必要はなく、参加者が主体的に作業を進めながら、必要に応じて、講師が改善すべき点、効率的に進める方法をアドバイスする、あるいは参加者らの予行練習の中で生じた疑問に答えるという極めて理想的な形で、講習会を進めることができた。

12 時半頃から 30 分程度で昼食をとり、午後は、参加者全員に、6 月の多摩講習会では十分に説明しきれなかった H 層について説明した後、枯死木調査と残りの炭素蓄積量調査にわかれた。H 層の判別については、西日本地域における H 層が生じやすい植生・地形環境を説明するとともに、各参加者に H 層に触れてもらい、指先で触った質感、赤味がかかった色から土壌と区別する等を伝えた。調査地は切り捨て間伐林で腐朽した倒木と根株が多く、分解度 3～5 の判定基準を説明するのに好都合であった。炭素蓄積調査については、6 月の多摩講習会では説明不十分であった次表層土壌の採取方法（ブロック&円筒サンプリング）を中心におこなった。

埋め戻しを終えて、カテゴリ A に関する全現場作業が完了したのは 17 時半頃であり、駐車スペースに戻った後、10 分程度講師からの総評およびアドバイスをを行い、解散となった。特に業者が用意していた土壌断面成形用のコテが非常に柔らかく成形には不向きであったため、使用する道具と装備数が作業効率を左右することをアドバイスした。

5 名の参加者のうち、2 名は 6 月の多摩講習会の参加者であった他は、土壌調査は初めての経験となる担当者ばかりであったが、事前の予行練習がきちんと主体的に行われていたため、今回の講習会では、受講者の技術向上により多くの時間を割くことができ、改めて業者の事前準備の必要性が確認された。



調査に向かう準備をする参加者



調査地点へのアプローチ



東西・南北ラインの設定



調査地概況の写真撮影



断面調査講習



H 層判別方法の説明



枯死木調査法の説明



作業完了後の総評・まとめ